

『関西大学経済論集』  
佐々木信彰先生退職記念号

関西大学 経済学会

## 巻頭言——佐々木信彰先生の御退職にあたって——

本年度末をもって、佐々木信彰先生が関西大学経済学部を定年退職されることになりました。長きにわたって日本の中国研究をリードしてこられた佐々木先生は、初めてお目に掛かった20年前と少しも変わらず、むしろ益々活力と知的好奇心に溢れておられ、そんな先生が関西大学を去られることは、誠に残念でなりません。しかしながら、その御活躍に心からの敬意と感謝を込めて、私たちは先生をお送りしたいと思います。

佐々木信彰先生は、1949年2月に兵庫県の太子町で誕生されました。奇しくも、中華人民共和国と同一年でいらっしゃいます。和歌山大学経済学研究科に進学された1971年は、ちょうどニクソン・ショックの年であり、先生は、東西冷戦下のまだ将来の見通せない時代から、中国経済に強い関心と問題意識を抱いて研究生生活を開始されていたのです。1981年からは大阪市立大学で教鞭を執られ、研究、教育、社会活動のすべてにおいて精力的にご活躍であった2010年に、関西大学経済学部にご着任されました。その時先生はすでに、日中経済協会調査委員会委員、アジア政経学会常任理事、日本現代中国学会理事長を歴任され、数多くの編・著書を御出版され、たくさんの門下生を輩出して、日本における現代中国経済研究を代表する人物でした。

にもかかわらず、佐々木信彰先生は非常に気さくで親しみやすく、労を厭わぬ精力的なお人柄で、学部教育では、中国経済論やゼミナールのみならず、学生を引率して上海へ短期留学に向かう GoLD プログラム（復旦大学）などもご担当くださいました。また、大学院では毎年数多くの留学生が佐々木先生のゼミを受験し、先生は彼らを熱心に指導されて、9年間の御在任中に数多くの修士課程、博士課程の修了者を輩出されました。加えて、執行部でも学生相談主事としてご活躍されるなど、佐々木先生の関西大学経済学部に対するご貢献の大きさには改めて頭が下がる思いです。

中国経済は、今や世界のバランスを変革させるほどの大きな存在としてその重要性を増しています。その、総合的視野にたった解明と、今後の動向を見定めてアジアの経済研究に新しい学識を重ねていくこと、それが、佐々木先生がこれまで、また現在も続けていらっしゃる学問的貢献です。私たちは、その後ろを追いかけながら、御学恩に感謝し、ご業績とご貢献を讃え、この記念号を献呈させていただきたいと思います。

これからも益々のご活躍を確信し、同時に強くご祈念いたしつつ。

2019年3月

編者を代表して

北波道子